他者からの声かけが動機づけと他者への評価に及ぼす影響

声かけに対する反応の個人差としての他者志向的達成動機

伊藤忠弘

(学習院大学文学部)

キーワード: 達成動機, 応援, 他者志向的動機

The effect of words of encouragement from others on achievement motivation and evaluation of them

Tadahiro ITO

(Gakushuin University)

Key Words: achievement motive, encouragement, other-oriented motivation

目 的

どのような応援や声かけが動機づけを高めるだろうか。励ましや声かけの仕方は多様であり, 同じ言葉であっても人によって受け取り方は異なる。また励ましてくれる人との関係やその際の状況によっても変わるだろう。本研究では仮想場面を用いて, 「頑張れ」という一般的な励ましに加えて, これまでの努力過程を認めて賞賛する声かけや逆に厳しく叱咤する声かけによる励ましを取り上げて, 声かけの仕方と達成者の余裕の有無による動機づけへの影響の差異を検討する。

本研究の2つ目の目的として, 他者からの声かけに対する反応を左右する個人差要因として, 他者志向的達成動機への態度を取り上げる。他者志向的達成動機は, 他者の期待に応える, あるいは他者からのサポートへの恩返しという気持ちで達成に努力する動機づけである。他者志向的動機を, 自己志向的動機と統合し内在化しているか(統合), 負担に感じるか(負担感), 懐疑的に捉えるか(利己性の認知)といった態度は人により異なる。他者志向的動機を内在化している人ほど, 他者の声援に肯定的に反応し動機づけを高めると予想される。一方, 他者志向的動機に負担感を感じる人は, 他者の声援に負担や不安を感じ, また他者志向的動機を懐疑的に捉える人は, 他者の声援に対してはも影響されないか, むしろ否定的に反応すると予想される。

方 法

研究参加者 大学生139名(男性48名, 女性90名, 不明1名; うち達成動機への態度尺度も回答した学生は60名)

質問紙 (1) 仮想場面 入試を目前にした定期テストとマラソンの2つの状況を設定し, 700~800字の物語を作成した。2つの場面それぞれにおいて, 主人公の余裕(有・無:2水準)と声かけ(賞賛・叱咤・励まし:3水準)で計6場面を構成した。余裕有場面は主人公の調子が良い状態で臨んでいるのに対して, 余裕無場面は主人公の不安が高く調子が上がっていない状態で臨んでいる。声かけは, 「いい調子(走り)だ」(賞賛), 「そんな(こんな)もんじゃないだろう」(叱咤), 「頑張れ」(励まし)の3種類とした。テスト場面では, 先生がテストの返却時に声をかけるというもので, マラソン場面では, 見ず知らずのおじさんが走っている主人公に沿道から声をかけるといったものであった。

声かけに対する反応として, 自分自身の感じ方や動機づけと相手に対する評価という観点から両場面にほぼ共通した18個の項目を作成し, 「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の5件法で回答させた。

(2) 自己・他者志向的達成動機への態度尺度(伊藤, 2012) 5つの下位尺度(自己志向的動機重視, 他者志向的動機重視, 他者志向的動機への負担感, 他者志向的動機の利己性の認知, 自己・他者志向的動機の統合) 25項目を4件法で回答させた。

手続き 授業時間の一部に集団状況で実施した。達成動機

態度尺度回答の6か月後に仮想場面質問紙を実施した。参加者はテスト・マラソンの2場面を回答した。この2場面は, 「余裕」と「声かけ」の内容が重複しないようにした。

結 果

テスト場面とマラソン場面それぞれの反応に対して最尤法プロマックス回転の因子分析を行った。固有値の減衰状況に基づき, いずれも3因子を採用し, 各因子に負荷量.40以上の項目で下位尺度を構成した。テスト場面では, 「安心」(5項目, 例: 安心する, 心強い), 「否定的反応」(8項目, 例: 私の大変さをわかっていない, 受験をやめてしまいたい), 「動機づけの上昇」(3項目, 例: もっと頑張ろう)と命名し, マラソン場面では, 「肯定的反応」(6項目, 例: もっと頑張ろう, ありがたい), 「否定的評価」(4項目, 例: ムツとする, 無責任なことを言っている), 「動機づけの低下」(3項目, 例: これ以上頑張れない, プレッシャーを感じる)と命名した。続いてこれらの反応指標を基準変数, 性別, 余裕, 声かけ(賞賛・叱咤)(以上4つはダミー変数), 達成動機態度の5つの下位尺度を説明変数とする重回帰分析を行った。

テスト場面 「安心」では賞賛の影響のみ有意($\beta = .79, p < .001$)であった。「否定的反応」では賞賛と利己性の認知の影響が認められた($\beta = -.59, p < .001$; $\beta = .28, p < .05$)。「動機づけの上昇」では賞賛と負担感の影響が認められた($\beta = .65, p < .001$; $\beta = .30, p < .05$)。

マラソン場面 「肯定的反応」では叱咤と「統合」の影響が認められた($\beta = -.48, p < .01$; $\beta = .35, p < .05$)。「否定的評価」では叱咤と「利己性の認知」の影響が認められた($\beta = .65, p < .001$; $\beta = .31, p < .01$)。「動機づけの低下」では余裕の影響が有意であった($\beta = -.29, p < .05$)。

考 察

テスト場面では, 単なる励ましや叱咤よりも達成努力を認め称えるような声かけが感情や動機づけに対して肯定的な影響をもたらしていた。一方マラソン場面では叱咤よりも励ましや賞賛的な声かけが肯定的な影響をもたらしていた。「頑張れ」というごく一般的な声かけの影響も場面によって異なるが, 達成課題の差異によるのか, 声かけをする相手との関係の差異によるのか, 明らかではない。

また声かけに対する反応が, 他者志向的達成動機への態度により異なることも示唆された。他者志向的動機に懐疑的で背後に利己的側面を認知する人は, 声援に対して否定的に捉えていた。また他者志向的動機を自己志向的動機と統合させて内在化させている人は, 声援に対して肯定的に反応していた。これらは予測と一致する。一方, 他者志向的動機に負担感を認知しているほど否定的な評価をするという結果は認められなかった。

本研究は田中千夏さんが2014年に実施した卒業論文の研究データに著者のデータを加えて再分析したものである。